

ハマフエフキ卵の水温とふ化時間の関係について

藤本 裕、金城武光

本報告は昭和59、60、61年度沖縄県栽培漁業センター事業報告書（昭和62年3月）に報告したもので、ここでは要約のみを記す。

1. 目的および内容

本県沿岸性魚類の中で水産上重要な位置を占めるハマフエフキは、昭和51年度から水試八重山支場で種苗生産に着手し、その後水槽内での自然産卵や仔魚飼育についての若干の報告があるだけで今日に至っている。そこで栽培漁業センターでは、昭和60年に水槽内自然産卵によって得られた卵を3段階に水温設定したふ化容器内に収容し、各々の卵発生状況を観察して、水温とふ化時間の関係について若干の知見を得た。

2. 成果の要約

- 1) 3段階に温度設定したふ化容器内での卵の発生状況を観察し、桑実胚になるまでとふ化するまでの水温と発生速度を求めた。
- 2) その結果、計算上ふ化に要する時間は、水温20℃で約44時間、25℃で23時間、30℃では15時間であった。
- 3) ハマフエフキ卵の発育臨界温度は16℃前後であろう。